

## 当院におけるオーバーナイト透析の患者基準と 透析条件・方法について

(医) 幸善会 前田病院  
前田 篤宏

オーバーナイト透析(ONHD)は1960年にScribnerらによって最初の報告がなされている。(Trans Am Soc Artif Intern Organs 1960)

本邦では2005年に神戸市の坂井瑠美、日立市の金田浩らが始め、現在40施設・1000人以上でONHDが施行されている。

当院では2015年5月より伊万里市の本院で、2016年8月より福岡市の分院でONHDを行っており、患者基準は透析中に著明な血圧低下が無い事・重度の睡眠時無呼吸が有る場合には持続陽圧呼吸療法(CPAP)を行う事・透析中のトイレ離脱が少ない事などとしている。

現在91名(男性:79名、女性:12名) に対してONHDを行っており、年齢 $56.1 \pm 10.2$ 歳、透析歴 $5.4 \pm 5.1$ 年、原疾患：糖尿病性腎症28名・慢性糸球体腎炎25名、CPAP使用者19名となっている。

透析条件は透析時間8時間、膜面積 $1.9 \pm 0.5$ m<sup>2</sup>、血液流量 $223.1 \pm 42.5$ ml/min、透析液流量 $497.7 \pm 21.3$  ml/minとなっている。

透析方法は時間当たりの除水量を500mlまでとし、寝返り等による抜針事故を防ぐために透析液回路を通常より60cm程長い物を使用し、脱血と返血部位をそれぞれ10cmのフィルムテープで固定し、監視カメラでモニターし、1時間毎の巡視を行っている。

血圧測定は開始時と終了時のみで、下肢つり・血圧低下などは2ヶ月に1名程となっている。

ONHDでは4時間透析に比べ予後が良好(Can J Kidney Health Dis 2018)、献腎移植の予後に匹敵する(Nephrol Dial Transplant 2009)等の報告が有り、当院においても開始から7年以上が経過したが死亡例は肺炎の1例のみであり、1年生存率は100%、5年生存率は98.6%と極めて良好である。